

番組審議会議事録（第7回、平成28年2月15日開催）

1 開催年月日：平成28年2月15日（月）

2 開催場所：私学会館 アルカディア市ヶ谷（5F 赤城）

3 委員出席

委員総数 9名

出席委員数 8名

出席委員の氏名：岡田裕介（東映株式会社 代表取締役グループ会長）、

足立盛二郎（前公益財団法人 日本棋院理事、

元ゆうちょ銀行取締役兼代表執行役会長・日本郵政取締役）、

兵頭俊夫（大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構

物質構造化学研究所特別教授）、

野田慶人（日本大学 芸術学部 学部長）、

音 好宏（上智大学 文学部 新聞学科 教授）、

中村幸雄（オフィス・サンライズ 代表、

元株式会社損害保険ジャパン 代表取締役専務・監査役）、

金子光男（公益社団法人日本将棋連盟 学校教育アドバイザー 大学担当

明治大学附属明治高等学校・中学校 前校長）、

小川誠子（囲碁棋士／公益財団法人日本棋院 理事）

欠席委員の氏名：清水市代（将棋女流棋士／公益社団法人日本将棋連盟女流棋士会会長）

放送事業者側出席者名：岡本光正代表取締役社長、勝股信昭取締役、

驛田雅文業務部部长、遠藤 健業務部課長、上枝史乃、高田智子

4 議題

- ・棋戦の生放送について
- ・囲碁スペシャル「GO・碁・ジャパン応援企画」について
- ・情報番組「まるナビ」について
- ・将棋スペシャル「西遊棋 in Tokyo」について
- ・「囲碁プレミアム」「将棋プレミアム」について

5 議事の概要

(1) 棋戦の生放送

最近放送した番組の中から、生放送を紹介。

(2) 囲碁スペシャル「GO・碁・ジャパン応援企画」

2016年2月19日に放送した囲碁スペシャルを紹介。

(3) 情報番組「まるナビ」

2015年10月から月1回生放送を開始した情報番組を紹介

(4) 将棋スペシャル「西遊棋 in Tokyo」

イベントとして開催し、その模様を2015年12月5日に放送した番組を紹介。

(5) 「囲碁プレミアム」「将棋プレミアム」

2015年10月から開始したVODサービスを主体としたインターネット会員システムを紹介。

6 審議内容

(1) 棋戦の生放送について

○ 実況は、とにかくまず存在することに意義があり、それがどれだけ広まるかというのが、次の段階という気がする。今朝も国会でスポーツの集客力の話が議論されていたが、その考え方が参考になると思う。スポーツが流行っているのは何故かと様々な切り口で考えてみた時に、個の勝負なので、プロがやっているのを観て、観る機会がスポーツに比べて……という発想で色々考えてみると良いと思う。サッカーに比べて観る機会はどうか。野球に比べてどうか。それから日本プロはアメリカに格段に劣るという切り口があるらしく、今日はそれが議論されていたのだが、それは何だと。日本のスポーツを超えてアメリカのスポーツに囲碁将棋が肉薄するにはどうすれば良いかと。色々な発展しているものの形というのはそうなので、囲碁将棋も長い時間かけて目指して成功するのが普及のためにやることではないかと思う。

(兵頭委員)

→ 生放送の視聴率は良い。感想戦等どこが面白いのかという分析が結構大事かと思う。(放送事業者)

○ 生放送の面白いところとか、素人にとっては面白くないところとかあると思う。良いところをピックアップして編集して放送すると、視聴率としてはどういう風な動きになるかという点も興味がある。(金子委員)

→ 形になっていくとは思う。一手に2時間考えたとき、それをずっと流しても仕方がない。あとは解説の付け方。例えば本人にやって頂く等、様々な要素が出てくると思う。(放送事業者)

○ 生中継の仕方も課題。うちはこういう生中継をするぞというのを、これから探っていくべき。(兵頭委員)

→ ネットの方で完全生中継をしているが、棋譜はネットに出ている。ただ、その場面で棋士を映していない。囲碁将棋chは棋士まで映像として映している。難しいのは、ずっと解説しているわけにはいけないので、費用の問題もある。やはりある程度は休憩時間が必要だとか、色々あるが、それは工夫していかなければいけない。画像もネット用なので、完璧ではない。色々研究の要素はあるが、基本的には生放送は入れていこう、増やしていこうという方向でやりたい。あとは視

聴者の意見や反応を見ながら、時間帯等、どういう風にしていけば良いか探って行きたい。(放送事業者)

(2) 囲碁スペシャル「GO・碁・ジャパン応援企画」について

※ GO・碁・JAPAN は、やはり海外ということで日本棋院さんが力を入れている。視聴者からも海外の棋譜を見たいと。海外の棋譜の解説番組等も増やしていこうかと。「第2回日中竜星戦」を3月中旬に中国でやる予定。今後、「日中竜星戦」は、奇数回は日本、偶数回は中国での開催を考えている。

将棋の方は女流棋戦が非常に充実してきている。一方、囲碁の方も会津中央病院杯や、新しい棋戦の放映権を取って放送し、女流棋戦に力を入れている。あとは会員制度の中で年に最低一回大きいイベントをやり、それをどう放送に絡めるかを考えて行こうと思う。(放送事業者)

(3) 情報番組「まるナビ」について

○ 今、週刊将棋が廃刊になるというのが伝わっており、そういう中で生放送で業界の情勢を伝えることは非常に期待が深まっているのではないと思う。非常に工夫の余地が考えられるのではないと思う。(中村委員)

→ 囲碁・将棋界は写真は多いが、動く映像は少ない。そこは特徴にしていきたいと思っている。そういう生の情報を、できるだけ早くホームページにアップしたい。情報というのは鮮度が大事。1ヶ月経つと古くなる場所がある。(放送事業者)

○ こういう番組はなかなか良い。取材に基づいて作られている。(足立委員)

○ 面白い(小川委員)

→ 囲碁・将棋チャンネルの顔みたいになっていく部分だと思う。今後どう充実させていくかが課題。(放送事業者)

○ どうしても従来の番組は棋譜の解説等非常に多かったが、こういう現実の動きを紹介する番組ができて、また充実してきたのではないと思う。(兵頭委員)

○ 生放送ではなく生番組では。今まで集めた1ヶ月分の情報を集約して生番組にして放送していることで、生放送ではない。やはり、キャスターの魅力は大きいところだが、中身を知らないわけにはいかない。知らない人がやってもちぐはぐになってしまうので難しい。ある程度知ってる人でないといけないし、顔になれる人じゃないといけないという難しさがある。(野田委員)

(4) 将棋スペシャル「西遊棋 in Tokyo」について

○ イベントへの参加世代は？ 50～70代も積極的に参加しているのか。(金子委員)

→ 先ほどの西遊棋のイベントは、やはり年齢層は少々高いかと思う。ただ、若い人、

子どもさん、或いは若い女性等もいる。(放送事業者)

- 「子ども将棋名人戦」や中高の将棋の大会など、かなり参加する人数や学校が増えている。そういう意味では今、小さい子や女性のファン層が増えてるという結構良い流れがあるように感じている。そういう中で役割が今後出てくるのかなと感じている。

もう一つは漫画や映画。「聖の青春」では大物俳優が結構出るので、世間から見ると将棋に関するファンが、注目を浴びると思う。ドラマや映画など、今後どういう風に一緒にやっていくのかを考えられると思う。子ども向けと、大人向け。将棋は指さない人のファンが増えつつあるので、そこにどうメッセージを発信するかが今後の課題。(中村委員)

→ それから、注目としてはコンピュータの件。「アルファ碁」と今度李世ドルさんが3月に対局する。囲碁将棋chは実はずっとコンピュータ選手権とか、囲碁対コンピュータを追っかけている。(放送事業者)

(5) 「囲碁プレミアム」「将棋プレミアム」について

※ 会員棋戦については年1回行い、例えば将棋の方では優勝者が銀河戦に出られるというようなことでやっていきたい。色々問題点も出てきているが、認知度は上がっている。やはり断然関東が多い。大阪が予想より少ない。(放送事業者)

- 生放送との連動等は、おそらくNHKは他の編成とぶつかるのでなかなか続けられない。WOWOWが提供しているが、テニスはそれでやっている。先ほどの話だと、囲碁・将棋chでやり、それをプレミアムでやり、積極的にやっていけば活性化するのではないか。プレミアムにしてネットと連動する時に、手続きがやはりご高齢の方がすごく苦勞されているようだ。その辺のサポートが上手く行くと、好きな方はどんどん入るだろう。(音委員)

→ とりあえずホームページを充実させて、変更したい。簡単に入れるように、仕組み作りを進めて行く。(放送事業者)

- コースが沢山ありすぎるようだ。500円、1000円、2000円と沢山作らなくても良い気がする。単体で観る時は500円、それは良いと思うが、あとのサービスはせいぜい2つくらいが良いのでは。(現状は)複雑すぎる。皆、考えながらやらないといけないわけだから。それから、先ほど、音先生も言われたように、生との連動というのは意味があると思う。やはりテレビの基本は生だから。

それから、僕は素人だから言いにくいですが、解説が多すぎるのでは？ 生の場合はそんなにいらぬのではないかという気がした。

生を始めたのは、ここでしかできない特徴なので、良いのではないか。しかし、(終局に至らずに)中途半端に終わってしまうのは、みんなネットに行ってくださいってなってしまうので、その辺が気にはなる。ネットのためには良いかもしれない。

- 精度はどうか？ カメラは何カメ使ってるか？ 固定は1台？（野田委員）
- 盤を映すカメラと、ツーショット映すカメラと、あとは解説者映すカメラと、基本的には3台使用している。（放送事業者）
- 少し変化がないと、生だと尚更。（野田委員）
 - プレミアムの2日制の料金のことが気になる。例えば、1000円払うのならば、1ヶ月の方へ誘導するというのもあると思うが、1日から月末だとそうはいかない。今見たいということもあると思うので、1日制を辞めて、2日制に全部して、或いは1週間制とか。1日制は辞めて、何か工夫されても良いのではないかと。（兵頭委員）
- 1日目は無料にして、2日目は有料等、今後検討致します。（放送事業者）
- 複雑になればなるほど、面倒に感じる。単純に買う人が楽になるようにすれば良いと思う。（野田委員）
-
- 全体的には大変に頑張っていると私は感じている。この調子でどんどん色んなことをやっていただければ良いのではないと思う。やはりテレビとかネット、こういう映像で大事なものは、対局者ばかりではなく、解説者というのが非常に大切。そのレーティングを上げていくかどうかという問題がかなりあると思う。良い人を出せるようなシステムを。出演者はどうやって決めているのか？（岡田委員長）
- 制作のディレクターが決めている。（放送事業者）
- 日本棋院の棋士が全員解説してるかと言ったら、そうでもない。やってる人と、やってない人がいるのは何故か。（岡田委員長）
 - 話が来ない人もいる。やはり慣れてると同じ方が多くなってしまわないか。（小川委員）
 - 出たくても下手な人は、やはりもっとディレクターが研究させてほしい。棋譜ばかりの話ではなく。解説者だけでなく聞き手も上手くなれば大変に面白いことになっていくと思う。ある種の漫才みたいなどころがあるわけなので、そこを慎重に。例えば、今の碁において、井山さんが打っている碁を本当の意味で解説できる人はいない。最近「井山さんならこう打って、どう打つんですかね」とか、コメントする人が多い。それはファン向けというか、放送用の人たちにやってるわけなので、我々に分かる面白い一つの場を作れば良いということもある。そこは今から研究してやった方が良いのではないか。基本はやはり、解説者と聞き手によると思う。観ている人を想定して、初段から三段に合わせるとか、やっていくべき話だとは思う。（岡田委員長）

以上